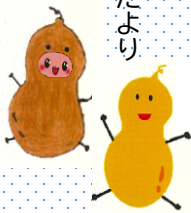


かわら版

集落支援員だより



「小浜の歴史を後世に伝え、地元愛を育みたい」そんな思いで仲間とともに活動しています。

岩代地域在住の有志を中心に設立され、史跡の整備や歴史的遺産の継承等に取り組んでいる『岩代小浜の歴史と文化を護る会』に、活動を始めた経緯や現在までの軌跡、伝えたいことについてお話をうかがいました。



▲小浜城の出城（二ツ石稲荷）も整備し、除草作業をしています

Q 活動を始めた経緯について

会の設立のきっかけは会津みしらず柿です。以前は柿のパンフレットに西念寺柿が元祖と書かれていたのですが、いつの間にか書かれなくなりまして。そこで改めて「小浜が会津みしらず柿のルーツだとうことを広く知らしめよう」という動きが生まれ、平成二十七年に設立しました。

当初の会員は十八名でしたが、九年後の現在は四十七名に増加。西念寺柿がきっかけで「岩代や小浜の歴史を後世に伝え、地元愛を育みたい」という思いを共有できる仲間が集まりました。



▲小浜城跡で会津みしらず柿記念植樹が行われました

Q 活動の軌跡について

最初の年は二本松市と会津若松市はもちろん、小浜に縁のある企業や団体等に働きかけ「会津みしらず柿里帰り事業」を実現しました。十六世紀に小浜を治めた大内氏の縁者、宮森三家でつくる宮森顕彰会との交流も始まり、小浜で行われる御先祖祭にも同行しています。小浜出身の先人達の業績を学ぶことを目的に「渡辺閑哉翁」講演会も開催し、約二百名が集まりました。その他、地域に残る道

「岩代小浜の歴史と文化を護る会」 令和6年の活動を紹介します！

毎年の恒例行事として、今年の活動を紹介します。

★1月15日 小濱町大火79年目の火防督励

昭和21年1月15日未明に出火し、143戸と小濱の歴史的遺産を消失させた大火を教訓にして後世に伝える防火パレード。子供達も参加し、火の用心を呼び掛けます。

★2月18日 小浜城第二曲輪跡から狼煙上げ

「戦国時代の伝達手段を再現しよう」と平成31年から狼煙上げをスタート。空気が澄んでいる2月に行っています。

★8月19日 閑哉翁墓参り

小浜が生んだ歴史的偉人、渡辺閑哉翁を偲び、命日に会員や希望者がお墓に花を捧げます。

★11月中 第10回総会

今年10周年を迎え、総会を盛大に行う予定です。
※上記のほか小浜城跡や出城跡周辺等の除草と伐採作業を随時行っています。



▲狼煙上げの場所は変わることがあり、消防署が立ち会う場合も



▲中学生がフィールドワークで二ツ石稲荷を訪れました

標や史蹟、記念碑等の修復や補修にも力を入れ、「小濱史蹟名勝二十七」というパンフレットを完成させるなど新聞を賑わせました。冬の恒例行事として、戦時中の小濱町大火を心に刻むための消防団による防火パレードに、「岩代小浜の歴史と文化を護る会」でも地元の子供達と一緒に参加。数年前から狼煙上げもスタートしました。小浜の小中学生を対象に「地域の講師を務める会」もいます。



▲小学生も拍子木を鳴らし、街中を歩きます

Q 読者へのメッセージ

発足当初から小浜城跡の堀切や出城の整備に取り組んだ甲斐あって、「見晴らしがよくなった」と皆さんから喜ばれ、二ツ石稲荷など訪れやすい史跡も増えました。活動の中心となるのは、主に除草と伐採作業です。これまで参加できるメンバーが草刈りや伐採等をしてきました。が、年々作業範囲が広がって人手不足に陥っています。少しでもお手伝いして下さる方がいたら、大変ありがたいです。◆問合せは、岩代小浜の歴史と文化を護る会 副会長 大内英克(☎五五・二〇二五)まで



▲木や竹を伐採しています

I Love Iwashiro ②⑥
 ～東新殿・カタクリ群生地～

岩代を愛する人がすすめる魅力あるスポットを紹介。二六回目は東新殿の菊地昇さんです。

東新殿の海谷清水のすぐそばにカタクリの群生地があります。高い山の斜面に薄紫や白い花を咲かせる様子は可憐で、一足早い春の訪れを感じさせてくれます。



▲山の斜面一面にカタクリの花が咲き誇ります。開花は桜の時期より早いことが多いですが、重なる年もあります

～ごみの出し方講座⑦～

～紙類のリサイクルのお願い～

紙類は貴重な資源です。適切に分別し、ごみの減量化、リサイクルにご協力をお願いします。紙類の分別については以下の通りです。

○新聞紙、新聞折込チラシ

▶外れないように、ひもで十字に束ねて下さい。

○ダンボール

▶1m×1m程度の大きさと、外れないようひもで十字に束ねて下さい。

○紙パック(牛乳・ジュース等)

▶紙パックは中を洗って切り開き、ひもで十字に束ねて下さい。

○図書雑誌類(書籍、マンガ、絵本、コピー用紙、便箋、名刺、紙製容器包装(菓子箱、包み紙)など)

▶外れないように、ひもで十字に束ねて下さい。

※名刺などの小さいものは、紙袋に入れて束ねて出して下さい。

◆紹介者◆

東新殿行政区副行政区長 菊地 昇さん



「私の家の庭先からカタクリ群生地が見下ろせるので、春先に楽しんでます。佐藤さんが長年育ててくれたこの場所を地域資源として皆で守っていききたいです」

六十数年前、地権者の佐藤喜三さんの親戚が草むらでカタクリの花を見つけたことから、佐藤さんによるカタクリの世話が始まりました。やがて訪れる人も増え、階段作り等に苦心していた様子を見た地元の人達が協力して補助金を利用して歩道を整備しました。以来、草刈りも自治会でやっていきます。気候にもよりますが、昨年は三月末に開花しました。よかったです。



▲東新殿の海谷清水の裏手にあります

岩代の歴史シリーズ
 両属の掎 石川弾正の生涯 ⑪

いしかわだんじょうけんしやうかい
 石川弾正顕彰会事務局長 日下部 善己

十一「塩松領石川分」の村々

塩松石川氏が開発経営した領地は江戸期には「塩松領石川分」と呼ばれた。当初の領域は現在の二本松市東部、国道三九号線及び四五九号線沿いの飯野境から針道・戸沢・太田そして百目木・茂原・田沢・山木屋付近の相馬境までのエリアと思われる。

しかし、その後田村氏や大内氏の外庄によって支配領域は縮小し、『松藩搜古』「天正十三年以前積達二郡図」によれば、当時の弾正は百目木・田沢・茂原・東新殿・西新殿・杉沢・山木屋の七か村を領有したという。一方、この頃絶頂期の小浜大内氏は、これ以外の塩松領の多くを支配していた。

その後小手森城等が弾正に与えられ、その領地は大きく拡大する。針道・小手森・南北戸沢・上太田・内木幡、東西新殿・杉沢、百目木・茂原・田沢、山木屋の村々が支配領域と想定できる。ここに内木幡村を含めることには疑問も残るが、この範囲が後年の会津城主上杉景勝の支城の塩松東城や再蒲生(秀

行)の四本松東城の城代・領主たちの支配領域にも繋がっているかと考えられる。

さらに、この領域が後の二本松藩針道組十三か村に重なるのは単なる偶然ではない。自然環境と社会経済状況を共有する阿武隈高地中山間地域の村々を包括した歴史地理的・政治軍事的領域としての「塩松領石川分」の最大領域が後世に引き継がれたことを示すものと思われる。

なお、文禄三年(一五九四)の「文禄三年七月蒲生領高目録」によって見てみると、安達郡(塩松)石高は三万五二〇〇余石である。このうち石川分は十三か村で一万二四〇石余となり、弾正は一万石の小大名といえる。ちなみに、二本松郡は三万三四六五余石である。

岩代の観光資源・歴史的資源等を再発見！
 岩代地域を一緒に盛り上げよう。

岩代観光協会 会員を募集中！

岩代観光協会では、新規会員を募集しています。会費は桜祭などのイベント、広報活動費等に利用されます。皆様のご協力とご支援をお願いいたします(年会費：個人会員1口1,000円、法人会員1口10,000円)。

◆連絡先：☎65-2803 岩代支所内 岩代観光協会事務局までご連絡下さい。